

文芸きくち



万句の里俳句会 2月句会

人声こゑの方より梅の匂ひけり
 露つゆの臺たい拳こぶしをほどく地の勢いきほひ
 日の光空に返して犬ふぐり
 草青くさあおむ心は遙か旅の空
 暖かし番つがいの鳩つば降り餌えさを食はむ

松永 久子
 隈部 輝子
 田中 美智
 宮本 雅子
 宮本 敏子

七城短歌会 2月詠草

杉の葉の枯れたるあまた境内の紅梅に目を繋がれて佇つ
 山茶花の花びら散らす木戸の辺は雨のいたづら我を通さず
 枝々に豆粒ほどの蓄たくわなす紅梅数輪今日開きたり
 招かれて敬老会に踊りを踏ん張る足に力入らず
 近隣の里に猪出没し被害出るのも間近と怖るる

山田 博
 高木 精
 佐々 重弘
 嶋田 晴美
 緒方 正俊

せせらぎ俳句会 2月例会

草萌えや新しい靴履いてみる
 オペを待つひとりの部屋よ名残雪
 冬耕とうこうの鋤くわ置き帰り夕支度
 ささくれし枝にも梅の花衣
 暖かやエプロン脱いで髪染めて

寺本 和子
 五丁 義昭
 藤本アツ子
 森 正子
 坂崎ユキ子

「里」短歌会 2月詠草

細りゆく父の命の枕辺にひとつ置きたる夏柑香る
 「すばらしい人生だった」と旅立ちし幾代先生遺影の優し
 夜景には映らぬ貧しきビル並ぶ百万ドルと謳うたわれる香港まっの
 草萌える日溜まりの中菜の花のかすかに揺られて我をいざなう
 山坂を越えて七十路春の日を浴びつつ夫と花を愛で居る

坂本 玲子
 林 淑子
 宮本 淑子
 緒方 悦子
 桑野 睦子

旭志文芸教室俳句の会 2月詠草

笹鳴きの未いまだ聞こえず梅の散る
 冬ふゆうららりハビリ散歩たのしかり
 足音に群れて翔び立つ初雀
 初晴れや男前する阿蘇五岳
 初観音おうな拌みて汁粉かな

中尾ヨシコ
 芹川のり子
 水谷 ミネ
 芹川 蓉子
 稗田 達恵

溪流短歌会 3月詠草

冬枯れの阿蘇野ひろがり薄の穂寥々として風渡りゆく
 睦月過ぎ凍てつく朝の紅梅の一輪咲きて春を呼びこむ
 庭隅の侘助一輪ひそと咲き続いて咲いた二日の後に
 霜柱解けし参道久びさに人語賑わふ今日は初午
 寒晴れの平成最後の睦月尽インフル完治し赤飯あかひ食ぶる

岩根 博恵
 田中 遙子
 堤 よしみ
 山田 弘子
 中川 愛子

肥後狂句水笑会 2月例会

ほろ酔い機嫌 皆んな美人に見えてくる
 ほろ酔い機嫌 手振り身振りで盛り上がり
 宮参り 節目節目に参りよる
 よかならば 税金免除してはいよ
 ほろ酔い機嫌 社長説教しよるヒラ

柏原 乗仏
 宮上 美由
 御手洗三代
 井手 水光
 山隈 好茶

菊池短歌会 3月詠草

暗あん々裡我がはかること伏線となりつついつしか言葉むすばむ
 若き日の恋がふわりとシャガールの絵の中に入る喫茶フランソワ
 百歳の母が散らしに箱を折るデスタップの笑み思いつつ
 「遠見が鼻」その麗しき名を蹴散らして「大観峰」とは遺憾の極み
 青空はその果てまでも春にしてひばりは吾を奮ふるい立たせる

怒留湯健春
 安藤 則子
 川口すみ子
 古賀 勝士
 中川 愛子

※肥後狂句水笑会は会の解散のため、今月号までの掲載となります。

入会希望など詳しくは、
 それぞれの句会や歌会
 にお尋ねください。

万句の里俳句会
 せせらぎ俳句会
 旭志文芸教室俳句の会
 肥後狂句水笑会

井芹 ☎090(1342)2151
 藤本 ☎0968(38)4087
 中尾 ☎0968(37)2578
 山隈 ☎0968(38)2051

七城短歌会 佐々 ☎0968(24)3761
 「里」短歌会 / さわか大学文芸クラブ
 木原 ☎090(5284)2418
 菊池短歌会 古賀 ☎0968(25)1764